

国境

2022.6.2

日本は島国のため、普段はあまり意識できないでいることの一つに国境がある。これが、陸続きであれば、どうなるのか。世界の多くの国々は、陸続きの国境をもっている。

狭い日本ではあるが、県境というものはある。私だけではないと思うのだが、車を運転していて他の県に入ると、何だかうれしい気持ちになり、ワクワクしてくる。少なくとも、これから他県に入るからといって警戒し、身構えるということはない。

では、自分が住んでいるエリアではどうであろうか。一戸建てであれば、お隣さんとの境がある。隣の土地に入ったからといって、ワクワクすることはない。これでは、不審な侵入者である。

季節は冬である。その年により、雪が多かったり少なかったりする。雪が多い冬には、お隣さんの家の屋根から雪が落ちてくる。そして、自分の家の庭に積み上がることはないだろうか。自分の家の屋根の雪はというと、これがまた違うお隣さんのご迷惑になったりする。

これはまだいいほうだが、土地問題はむずかしい。自分の土地に対しては、多くの人が神経質になる。その結果、トラブルも発生する。きっと国境の問題も似ているのだろう。自分の国の領土を守るためには神経質になる。とても大らかな気持ちではいられない。それが、陸続きであればなおさらである。常に緊張状態が維持される。

以前、イタリアに住んでいるときに、車でスイスとの国境まで行ったことがある。いったい陸続きの国境はどうなっているのかという興味本位からである。すると、頑丈そうなゲートがあり、こわそうな兵隊さんが立っていた。「これはまずい」と、急いで引き返した。

しばらくして、またスイスとの国境に行ってみた。なぜそんな行動に出たのか。欧州連合、EUになったからである。話では、EU加盟国の間では、自由に行き来ができ、通貨も共通のユーロになったらしい。

本当なのか。あの絶対突破できそうもないゲートがなくなり、こわそうな人もいなくなるというのか。EUとは、そんなにすごい組織なのか。島国育ちの私には、いろいろと興味が湧いてきた。おそろおそろスイスとの国境に近づいた。すると、あのゲートが開いているではないか。こわい人もいない。本当に、何の手ごたえもなく簡単にスイスに入国できた。拍子抜けである。だからといって、計画があるわけでもなく、すぐにイタリアに戻ったのだが。

隣人同士仲良くいきたいところだが、境が存在する以上、人というのはむずかしい。それは国というレベルでも、ご近所さんでも本質は似ているように思う。日本に住んでいる以上、国境ということ意識するのは困難なことかもしれない。しかし、陸続きの国境をもつ他国に思いをはせることで見えてくることもある。